

JFIR 公開ウェビナー（オンライン開催）

「地経学的視点から見たインド太平洋地域における日印協力－制度化を中心に－」
のご案内

この度、日本国際フォーラムはインドのオブザーバー・リサーチ財団（ORF）との共催で12月9日（木）に下記要領にて公開ウェビナー「地経学的視点から見たインド太平洋地域における日印協力－制度化を中心に」を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

中国は国際的なサプライチェーンを自国に依存させるべく、一帯一路沿線国やインド太平洋諸国に対し、経済力を駆使し、債務の罠や相互依存の罠をしかけることで影響力を行使しています。これに対し米国は国家予算を投じて半導体の生産拠点を誘致し、価値観を共有する豪州と協調してレア・アースを確保することで応じています。こうした事例から、中国による地経学的手段の行使に対抗するには、地理的に近接し、かつ価値観とその法制度に共通点をもつ、すなわち「制度的近似性」を有する国々で構成された制度枠組みの活用が有用ではないかという考え方が出てきています。

日印は互いに民主主義や法の支配という価値観を共有する、経済・安全保障・外交上欠かせないパートナーであります。両国が地経学的観点からさらに関係を深めるためには、日米豪印4か国の枠組みであるQUADや、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」構想といった枠組みの下、両国にはどのような協力が可能なのか、しっかり検証する必要があります。さらに、両国にとって地経学上重要なASEAN諸国との協力関係の構築をASEANサミット等の枠組みとの関連性からみていく必要があります。

このような問題意識を踏まえ、当フォーラムが昨年度より組織する「米中覇権競争とインド太平洋地経学」研究会では、制度枠組みに焦点を当て、地経学的観点からみた日印協力の可能性を探る公開ウェビナーを開催することといたしました。

第1セッションではQUADの枠組みをつうじた日印の地経学的戦略の現状と展望について、兼原信克・当フォーラム上席研究員／同志社大学特別客員教授／前国家安全保障局次長とDeepa Gopalan Wadhwa 元駐日インド大使よりご報告いただき、第2セッションでは両国及びインド太平洋地域にとって地経学的に望ましいFOIPのあり方について、Mihir Swarup Sharma オブザーバー・リサーチ財団経済・成長プログラム・ディレクターと研究会主査の寺田貴・当フォーラム上席研究員／同志社大学教授よりご報告いただきます。各セッションでは報告の後、研究会メンバーおよびインド、ASEANの専門家よりそれぞれコメントをいただきます。

記

1. 日時：2021年12月9日（木）15時30分から17時45分まで（Zoom開室は15時20分から）
2. 開催形式：オンライン形式（Zoomウェビナー）
3. 参加費：無料
4. 使用言語：日本語と英語による同時通訳
5. プログラム案（<https://bit.ly/3cIBE9P>）
6. 申込方法：webフォーム（<https://forms.gle/KQb85aJUEwnPwDUM7> ※右QRコード）



からアクセスするか、または、下記「出席回答用紙」に必要事項を必ずご記入の上、メール（jfir@jfir.or.jp）またはFax（03-3589-5120）にて12月7日（火）までにお申し込み下さい。お申込みいただいた皆様には、会合前日までにメールにて、Zoom参加URL、パスワード等の詳細を送信いたします。

出席回答用紙（2021年12月9日（木）公開ウェビナー）

送信先：公益財団法人日本国際フォーラム事務局（担当：伊藤和歌子）

問合せ先：jfir@jfir.or.jp までお問合せください。

出席します

御芳名

御肩書

御連絡先（TEL）

（E-mail）